

## セイフツタヨウセイってなんじゃ3か?



丸いのに、四角いのに、長細いのに、ひし形に、目玉がとびだしてたり、くっついていたり、ハサミが大きかったり、ダンス踊ったり。私たちが「カニ」とひとくりにしちゃうてる彼らは、よく見れば、それぞれ違った特徴がある。彼らには彼らなりの理由がちゃんとあるのだ。(たぶんね) 生きものたちは、いのちをつなぐために、いのちを守るために、あの手の手で必死なんだ。

▼そう、中津干潟にはいるんなかに、カニだけじゃないよ。サカナにカニにイカにタコ...。ヘンテコでフシギな生きもの、いのちであふれてる。そして、彼らのひとつが、いなくなっても、中津干潟は成り立たない、生きものたちは持ちつ持たれつ、関係の中でくらしてらるんだ。これが生物多様性。

▼わたしたち人間もちょっと前までは、そうだったはずなのにね。人間もこの壮大な仕組みの中の一員。それを忘れちゃったから、地球上の自然や生物の営みがおかしくなっちゃった。地球の明日! になっちゃったんだ。だから、もう一度、私たち人間も自然の一員だ、ことを思い出して、大地や水や空気やお日様に感謝して、生きものたちと仲良くくらすように知恵を出し合って頑張りようよ、ってのが、最近チマタでよく聞く「COP10」というコトバの意味。むずかしいことなんかありませんよ。

### COP10サイドイベントへの参加のご報告

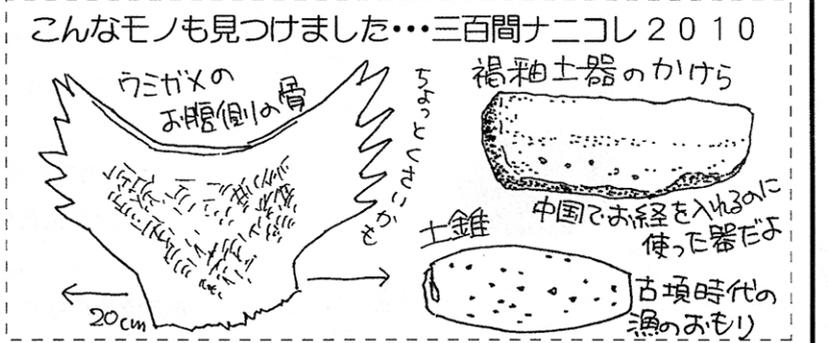
- 活動発表
  - 9月22日「海洋・沿岸の生物多様性ー市民が支える海洋保護区と持続可能な漁業」主催：生物多様性条約市民ネットワーク沿岸・海洋部会
  - 9月27日「水産業における生物資源の持続可能な利用」主催：(社)日本水産学会
- 賞をいただきました
  - 9月26日「World Wetland Awards 世界湿地賞」授賞式主催：世界湿地ネットワーク
- 活動が紹介されました
  - 環境省のパンフレットに国内の優良事例として掲載されました。

▼いや、もつと国家間のフクザツな問題もあるじゃろう。ってご意見が飛んできそうだけど、でも、この考え方が基本じゃないかとアヤシイ干潟探検隊長は思った。

▼さて、生きものが元気になるためにできること、何があるかな? 簡単そうだけど簡単じゃない。私たちに与えられた大きな宿題、頭でっかちになつたら解けないよ。ちよつとしゃがんで足元をよーく見つける、そして、時々、空を見上げて深呼吸する、それから「くもりなきナマコ」を養つこと。かな。

### 9月19日の三百間ビーチクリーンにご協力いただき、ありがとうございました。

- 参加者 200名  
燃えるごみ 160kg  
燃えないごみ 360kg  
粗大ごみ 410kg
- 海岸漂着ごみ調査結果  
1位 プラスチックシート破片  
2位 ガラス破片  
3位 食品の包装・容器



- 活動報告(2010.7.11~2010.9.30)
- 7.12 海洋政策研究財団ヒアリング 豊後高田本郷小学校干潟学習
- 7.13 読売新聞取材対応 耶馬溪町青少年健全育成会議講師
- 7.14 県排水対策課企画提案事業審査員
- 7.15 県環境学習DVD制作委員会出席
- 7.16 県森林づくり委員会出席
- 7.17 中津の郷土史を語る会講師
- 7.20 和田公民館田尻老人会学習会講師
- 7.24 日田市立博物館シンポジウム講演 夏休み干潟観察会主催
- 7.26 大分建設新聞取材対応
- 7.28 日田市立博物館干潟観察会講師
- 7.30 山移川行事下見
- 7.31 豊田小学校6年魚市場見学サポート
- 8.2 県河川課川づくりコンペ審査員
- 8.3 アサヒビール「うまいを明日へ」キャンペーン交付式 県生物多様性戦略策定会議出席
- 8.5 スポニチ取材対応
- 8.17 県森林づくり委員会出席
- 8.19 東京電力広報誌生物多様性対談
- 8.20 うみたまごへ打合せ
- 8.23 大新田海岸・三百間海岸調査 アカテガニ産卵観察会
- 8.26~27 山移小6年山と海の学習サポート
- 8.28 げっちょ先生と干潟観察
- 8.29 げっちょ先生講演会「身近な自然のみつけかた」共催
- 8.30 げっちょ先生山田小学校観察会参加
- 8.31 中津干潟保全の会出席
- 9.4 川漁師さんと魚とりに挑戦!主催
- 9.5 北部小PTA主催三百間海岸清掃参加 大新田海岸ほか調査
- 9.11 大新田海岸測量調査
- 9.12 舞手川河口調査・三百間下見
- 9.15 中津南高文化祭にて講演
- 9.18 海岸清掃準備ほか
- 9.19 三百間海岸清掃・漂着物調査主催
- 9.22 中津市まちづくり審議会出席
- 9.24 県生物多様性戦略策定会議出席 ササヒビ準備
- 9.25 北部小放課後子ども教室ササヒビ体験
- 9.26 ササヒビ片付け

名古屋で開催されているCOP10に参加しました。3年前に水サミットを経験しましたが、やはり英語が飛び交うコクサイカイギは緊張します。中津干潟のことをたくさんの人に知ってもらうことはもちろんですが、国内や海外の政策やNGOの活動を知ったり、交流をはかったり、外に出て行くことで得られるものは多いなと思つた5日間でした。



## 伝言板

タイヘンです! 3月以降ビーチクリーンをしていないため、大新田がごみだらけです~!是非是非ご協力を!

### 大新田ビーチクリーン

日時:12月5日(日) 11:00~

★11月28日山の観察会を行います★  
詳しくは同封のチラシをご参照ください。

### 中津干潟レポート2010ができました。

水辺に遊ぶ会では、中津干潟の調査研究活動を実施していますが、その報告とCOP10にあわせて、この度、中津干潟レポート2010を発行しました。ガタガタ通信とともに、皆さまのお手元にお届けいたしております。2010年9月現在、中津干潟では600種を超える生物が確認され、その約35%が希少種であることがわかっています。文字通り、生物多様性に富む環境が存在していることがわかります。それでも、アサリをはじめとする二枚貝が著しく減少したり、活動をはじめた頃にはたくさん観察されていた生物が、最近は見られなくなったりと、干潟は日々変化を続けています。「いのちあふれる中津干潟」がいつまでも続くように、私たちは、中津の沿岸の環境を見つめ、守り継ぐ活動を続けていきたいと思っています。その一助として、この干潟レポートが活用していただけますと幸いです。

※在庫がございますので、入り用の方は、事務局までご連絡ください。

### アサヒビール株式会社さまに謹んで御礼申し上げます。

アサヒスーパードライ「うまいを明日へ!」プロジェクト アサヒビール株式会社様より、水辺に遊ぶ会の環境活動に1,035,000円のご寄付をいただきました。

いただきましたご寄付は、調査研究活動に大切に活用させていただく予定にしておりますことを、紙面にて会員の皆さまにご報告いたします。また、本キャンペーンのために、アサヒビールをたくさん消費して下さった会員の方々にも心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

### 昔の海の写真募集中

ササヒビ・浜遠足・貝掘りなど 昔の海の写真を探しています

★毎月11日はジャスコでお買い物★イオン三光SCイエローレシートキャンペーン★  
毎月11日にお買い物をした黄色いレシートを食品レジ前の「水辺に遊ぶ会」BOXに入れていただくと、金額の合計の1%が水辺に遊ぶ会の活動資金として寄付されます。

ホームページ営業中! 遊びに来てね!!

<http://www.max.hi-ho.ne.jp/y-ashikaga/>

## 水辺に遊ぶ会 MUSEUM

水辺に遊ぶ会ミュージアムは「建物のない博物館です」

<http://www.geocities.jp/kabunykun/index.html>

メールはこちらへ→[mizube1999@yahoo.co.jp](mailto:mizube1999@yahoo.co.jp)

# たかが貝殻 されど貝殻

げっちよせんせと中津干潟をあるいたのだ

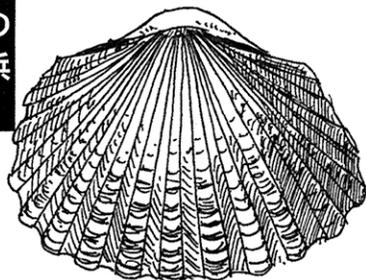
▼げっちよせんせ、こと盛口満先生は幼少の頃を千葉県の館山の海辺の町で育ったという。毎日浜で貝殻を拾って集める子どもも多かったそう。子どもの頃の貝殻コレクションを最近改めて見たとき、その中には千葉の海で、いや、日本中の海で見ることができなくなったハイガイの殻があったことから、干潟の貝に興味を持ったのだそうである。隊長あこがれのげっちよせんせのマイブーム（表現古いよ！）が干潟の貝なんて！何という偶然！なんとというラッキー！ということ、暑い暑い夏の日、アヤシイ干潟調査隊はげっちよせんせと貝殻求めて干潟歩きをしたのである。

▼げっちよせんせは、東京湾の貝塚で出土する貝と、現在東京湾沿岸に生息する貝にはギャップがあるのだとおっしゃる。気候変動と人間の影響で、東京湾の環境が変わってしまったことを、物言わぬ貝殻たちは密かに語っているのである。特にせんせのお気に入りにはハマグリとハイガイらしい。ハイガイ。そう、あのイサハヤ湾が締め切られた後の乾いた干潟に賑々と転がっていた貝であり、中津干潟でも生きたのにはお目にかかれていないマボロシの貝なのだ。

▼じゃ、中津の貝塚にも行ってみませんか、と三保にある入垣貝塚に案内。といっても、畑の横に看板が立つるだけのうらぶれた貝塚跡……や、でも土の中からハマグリが顔を出しているのが見えて、せんせはご満悦？ 約3500年前、縄文後期のこの遺跡から出土する貝はほとんどがハマグリ。そして、アカニシ、サルボウ、シオフキ、アサリ……そうなのだ。中津の貝塚から出てくる貝と中津干潟に今生息している貝たちは、全く変わらぬものである。あれれ？ 東京湾とは大違いだぞ。ってことは、3500年の間、中津干潟や豊前海周辺は、貝たちの暮らしを脅かすような大きな環境の変化が起こらなかつたということなのだろう。そして、われわれ豊前人（いつそんな言葉が……）たちの食生活もほとんど変わらなかつたのだ。

▼とはいえ、ハマグリもアサリも、なかなかお目にかかれなくなつたこの頃。げっちよせんせの言葉を借りれば「数千年前からの命のリレーがたれつたつある」のである。果たして、私たちは、この命のリレーを次の世代につなぐことができるのだろうか……？ セキニンジュウダイなのであるぞよ。

## ハイガイ



よい子の 里海里浜 図鑑

漢字で書くと「灰貝」。昔、この貝殻を大量に焼いて、石灰を作ったことから名前がついたらしい。伊勢湾以南、朝鮮半島、中国、東南アジアなどに生息するが、国内では有明海以外は絶滅したのではないかとされているが、有明海でも数は多くない。アカガイの仲間の中では、炊いて食べるというには美味いらしい。アヤシイ干潟調査隊では、中津干潟の沖に、ひっそりとくらすしているんじゃないかと実は疑っている。どこかで見た人いませんか！

盛口満先生 ●プロフィール

沖縄大学人文学部準教授 千葉県生まれ 1985年より自由の森学園中・高等学校の理科教諭として生物を担当。2000年に沖縄に移住、珊瑚舎スコレの活動に携わりながら2007年より現職に就く。

## 9月5日 はれ 山移川で川漁師さんと魚捕りをした。

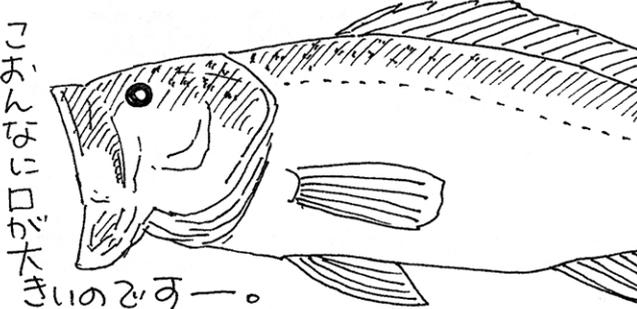
いろんな魚が観察できて、楽しかった。でも、漁師さんの話だと、昔は山移川には、もっとたくさんシラバエやアユがいたんだけど、最近はいなくなりなっちゃたんだって。何でだと思う？ ブラックバス（オオクチバス）とかブルーギルという外来魚が、耶馬溪ダムからやってきて、魚をどんどん食べちゃうらしい。

だから、ブラックバスも観察したよ。口が大きくて、魚や魚の卵や、蛇とか鳥のヒナまで食べちゃうんだって。解剖してみたけど、お腹の中のものはいくらもなかった。大きくなって釣りごたえがあるからって、釣りをする人たちがあちこちの池や川に放したのが、日本中でどんどん増えて、ちょっと困ったことになっているんだって。そういえば、ボクの友だちは、近くの池でバス釣りしてるよ。キャッチアンドリリースって言って、釣った魚はかわいそうだから、また池に放してあげるんだって。これって本当に自然や魚にやさしいことなのかな？

じゃあ、何でも食べちゃうブラックバスを人間が食べちゃおう！って焼いて食べてみたよ。結構美味しかった。みんながブラックバスを捕まえて食べたら、山移川に魚が戻ってくるかな？

ブラックバスは特定外来種と言って、どこかの川や池に放したり、捕まえたのをどこかに持って行ったりしてはいけないという法律があるんだそう。でも、釣ったその場所で料理なんてできないよー、って言ったら、漁師さんが、「川の土手とかに放っておいたらいいよ」って教えてくれた。それって、なんかかわいそうだなー、と思ったら、漁師さんは「そうやって置いておかれたブラックバスをキツネやイタチが夜に来て食べるから、ブラックバスの命はちゃんと他の生きもの命になるからね」って。

ブラックバスは悪くないのに、なんかかわいそうだな。でも、日本に昔からいる魚たちも困っている。漁師さんも魚がいなくなってさみしいって。むずかしい。自分たちの楽しみのためとか、もう飼うのあきらめたからって、日本にいない生きものを、勝手に放したりするのはいけないんだと思ったよ。



こまんなに口が大きいのよー。

## アタタも『海ごみ排出ゼロ宣言』してくださいね！

おふいた島のゆるキャラ めじろんはおさななじみの。

おふいたの海で、ごみを背中のわごに集めては、エネルギーにかえる鳥型海獣ごも、ときどきごみひろいに夢中になりすぎて、背中のごみが落ちるのに気がつかないふとほけく。

530

ごみせろんちゃん

日本の人口は1億2,750万人。  
2009年のJEANさん主催のグリーンアップ  
キャンペーン参加者はのべ46,574人。  
(もちろん水辺に遊び会の参加者も入ってますよー)  
これは日本の人口の0.04%です。  
海洋ごみ問題を解決するためには、  
ごみを拾う人を増やすことも大切ですが、  
1億2,750万人がごみを出さない人になることも必要です。  
『海ごみ排出ゼロ宣言』では、  
より多くの市民に「海洋へごみを出さない」宣言を  
してもらい、  
その宣言を生活エリアと繋げることで、  
日本を「ごみを出さない人」で埋め尽くそう  
という活動です。  
9月の三百間ビーチクリーンでは、80名の方が  
『海ごみ排出ゼロ宣言』をしてくださいました。  
小さなことから一歩ずつがまいません。  
海の環境にやさしい暮らしをこころがけませんか？